

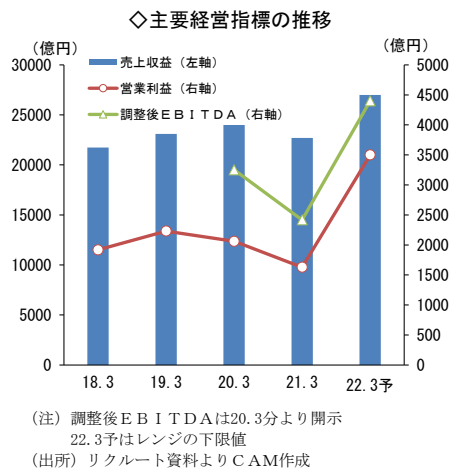
企業ニュース リクルートホールディングス

(東証1部: 6098) <https://recruit-holdings.com/>

作成者: 高見澤晶子

販促・人材サービス大手

販促・人材関連サービスを手掛ける。事業内容は、①2012年に買収した米インディード社を中心としたHR（ヒューマンリソース）テクノロジー事業、②住宅の「スーモ」、旅行の「じゃらん」など多様な領域で情報サイトの運営を行うメディア&ソリューション事業、③国内外で展開する人材派遣事業。21.3期の売上収益構成比は、HRテクノロジー19%、メディア&ソリューション29%、人材派遣52%。セグメント利益構成比では、HRテクノロジーが約3割、メディア&ソリューションが約4割を占める。2010年代より海外展開を加速、前述のインディード社や2018年の米グラスドア社のグループ化など、積極的なM&AによりHRテクノロジーの事業規模を拡大している。



旺盛な採用需要によりHRテクノロジーが好調

22.3期・第2四半期累計(4-9月)の連結業績は、売上収益が1兆3,659億円、前年同期比31%増、営業利益が2,229億円、同198%増。会社が重要指標と位置付けている調整後EBITDA(営業利益+減価償却費および償却費±その他の営業収益・費用)は2,664億円、同116%増。HRテクノロジー事業がけん引、米国を中心とした強い採用需要に起因し、インディードの有料求人広告利用が増加した。メディア&ソリューション事業は、コロナ禍における前年同期の家賃支援給付金事務事業の反動減により伸びが鈍化したが、その影響を除くと堅調な推移であった。

22.3期の通期会社計画は、売上収益が2兆7,000億円~2兆8,000億円、前期比19~23%増、営業利益が3,500億円~3,800億円、同115~133%増、調整後EBITDAが4,400億円~4,700億円、同82~94%増。上期の進捗と足元の事業環境を踏まえ、8月12日公表計画(売上収益2兆6,000億円~2兆7,000億円、営業利益2,700億円~3,400億円、調整後EBITDA3,600億円~4,300億円)から上方修正、ドル/円の想定は111円とした(5月17日公表108円)。米国の採用競争過熱は下期に入っても続いており、当面はHRテクノロジー事業への追い風となろう。

[株価動向・投資判断]

会社が注力するHRテクノロジー事業の一段の成長加速に期待したい。

<6098 リクルート 業績:IFRS>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上収益 百万円 (伸び率)	営業利益 百万円 (伸び率)	税引後利益 百万円 (伸び率)	当期利益 百万円 (伸び率)	1株利益 円	1株配当 円
20.3	2,399,465 (4)	206,011 (▲ 8)	226,149 (▲ 6)	179,880 (3)	108.3	30.00
21.3	2,269,346 (▲ 5)	162,823 (▲ 21)	168,502 (▲ 25)	131,393 (▲ 27)	79.8	20.00
22.3 予	2,700,000 (19)	350,000 (115)	350,000 (108)	258,500 (97)	158.2	21.00

(注) 22.3予の売上収益、営業利益、税引後利益、当期利益、1株利益はレンジの下限值。



[主要株価指標] (売買単位: 100株)	
株価 (2021/11/26)	7,011 円
年初来高値 (高値日)	8,180 円 (21/11/15)
同 安値 (安値日)	4,173 円 (21/1/5)
予想 P E R (22.3 予)	44.3 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	769.9 円
P B R	9.11 倍
予想配当利回り (1株当たり配当金年21.00円)	0.30 %
R O E (21.3)	12.6 %
発行済み株式数	169,596 万株